



片山かおるの ちょっとカエル通信

31号

おとなも子どももいっしょに育つ町にしよう

【12月の議会の報告など】

- 市民自治こがねい/漢人あきこと自治する会 小金井市本町2-19-36 Tel/Fax 042-316-1619
- 片山かおるといっしょにかえる小金井の会 小金井市中町3-10-10-103 Tel/Fax042-316-1511

エコでピースでフェアな未来へ

かんど

漢人あきこの 市議会れぽーと

No 124



やっぱり!

新しい市政が求められています

理不尽にも昨年2回目となった 12/18 の市長選で、稲葉市長が当選しました。4月よりも投票率が3%ダウン。稲葉市長は応援議員が増えたにもかかわらず2000票減で、有権者全体に対する絶対得票率はわずか15%です。12/27の臨時議会での市長挨拶は、市民の大きな期待を背負って当選した佐藤前市長と比べて、とても弱々しく感じました。

■原発事故後の小金井市の選択と責任

福島第一原発事故後、小金井市民が選んだ新しい市政は、脱原発派の市長のもとで、市長と議会の二元代表制を機能させて、市民が参画する新しい政治の実現でした。12月の市長選でも、反稲葉票の多さに、その思いが変わっていないことが示されました。

また、ごみ問題での市長辞任・再選挙となった、その根本原因は、稲葉市長の前市政にありましたが、一方で、市民派の佐藤前市長が登場したこの1年で、政

治に関心を持つ市民が増え、ごみ問題の当事者としての意識も大きく高まっています。

私たちは佐藤前市長と市民の市政評価と反省もふまえ、稲葉市長の市政チェックを行っていきます。

■市民が注目！古い議会に逆もどり？！

市民の批判の目は議会にも向けられています。

議会は「与党・野党」の古い構図に逆戻りしようとしていますが、議会改革の流れは止められません。

市民参加の議会をつくる議会基本条例は来年3月の市議選前の制定が確認されています。12月から公式な議会インターネット中継が始まりましたが、これは市民による自主中継と陳情という強力な後押しで実現したものです。

去年の稲葉市政の頃から時代は大きく変わっています。市政も議会も逆戻りは許されません。



来年度予算に注目！

小金井市の抱える課題はごみ問題だけではなく、市民交流センターと財政、非正規職員のワーキングプアの上に成り立つ職員制度、公共施設の老朽化と再配置など難しい問題も多くあります。介護保険制度が変わる中、介護保険特別会計は危機的状況です。国は「子ども子育て新システム」を始めようとしていますが、市内に幼稚園がなくなり、認証保育所は市外からの参入が増え、子どもの育ちへの影響が心配です。夏には再生可能エネルギー法が施行されます。原発からの脱却には、電力自由化と節電を進める必要があります。

佐藤市長の指示で作られていた来年度予算が、稲葉市長によってどこがどう変わって提案されるのか注目とチェックが必要です。

— 議会の日程 —

- 1/12(木) 総務企画委員会
- 17(火) 議会運営委員会(議会改革)
- 24(火) 庁舎建設等調査特別委員会
- 27(金) 議会運営委員会(陳情審査)
- 30(月) 厚生文教委員会
- 2/ 3(金) 建設環境委員会
- 6(月) ごみ処理施設建設等調査特別委員会
- 7(火) 議会運営委員会(議会改革)
- 15(水) 議会運営委員会(議会日程、議会改革)
- 20(月) 第1回定例会開会・本会議

2/26 日曜議会 施政方針への会派質問

片山かおるのプロフィール 1966年生れ/前原町在住/09年4月より市議会議員/総務企画委員、ごみ処理施設建設等調査特別委員、議会報編集委員/市民自治こがねい共同代表

漢人あきこのプロフィール 1960年生れ/緑町在住/97年4月より市議会議員/建設環境委員、議会運営委員、庁舎建設等調査特別委員/市民自治こがねい共同代表/みどりの未来運営委員長

ごみ

「密室」と「脅し」はもう、たくさん！



外交問題だから…と、議員への報告も口外禁止とされ、市民には現状が伝えられないごみ行政が続いてきました。その結果が、ごみの受け入れ拒否という外圧を利用した脅しによる市民派市長の辞任劇でした。

▼ごみ焼却は世界の非常識、三多摩全体で脱焼却へ

世界の焼却炉の70%が日本にあります。いのちや環境よりも、大量生産・大量消費のために、どんどん「ごみ」にして燃やすことが優先されてきたのです。この流れを変えなければなりません。製造者責任によるごみゼロ化法も必要です。

三多摩各市でも寿命が迫っている焼却炉が複数あり、小金井市の現状は他人ごとではありません。徹底的な分別・資源化で焼却量を減らし、新たな焼却炉は作らずに既存施設での共同処理をお願いしながら、国の政策転換・法整備をすすめてみましょう。三多摩には「脱焼却」をリードする力があると思うのです。

放射能 「内部被ばく」を防ぐために

福島第一原発事故による放射能汚染は、長期間に及ぶ内部被ばくとの付き合いという新たな段階に入りました。チェルノブイリ事故による低線量・内部被ばくの被害の実態や評価がやっと、明らかになりつつあります。放射線の感受性の高い子どもたちへの配慮という大人の責任が問われています。

▼協働モデルの測定室の充実と、給食測定の強化を

市民が不安な食品の放射能測定ができる、市民が運営する測定室が全国に増えています。その先進モデルとして小金井の測定室が果たしている役割はとて大きく、充実が求められます。

また、今後は行政の責任として、給食からの被ばくゼロをめざして、食材の選定と測定を強化していく必要があります。

☢ 「原発」都民投票

東京電力の原発の是非は都民が決めよう！と都知事に条例提案を求める直接請求の署名活動が行われています(小金井は2/18まで)。

詳しくは→直接請求を成功させる会・小金井 042-387-1068

ブログ：<http://tomintohyo.exblog.jp>

～日の出町からのメッセージ～

12月の市長選では、「日の出ごみ最終処分場建設に反対するトラスト運動」の地権者であった齊藤候補が市長になれば、日の出町からごみ受け入れが拒否されると、稲葉候補からの大宣伝が行われました。あまりに一方的な攻撃に対して、処分場問題に長年取り組んできた日の出町議の田村さんからメッセージが届きましたので紹介します。

漢人は日の出のトラスト運動やその後の裁判にも参加してきました。一貫しているのは、ごみ行政を牛耳る勢力による、根本的な解決を求める声を「反対派」とレッテル貼りして、その場逃れに走る強圧的な対応です。

今から20年前、多摩地域の多くの住民が処分場の安全を問題にして声をあげました。

とにかく当時はゴムシート一枚で、それがズタズタに破れているのに、処分組合は「破れてない」と言い張り、公害防止協定通りの分別や破砕もろくにされておらず埋め立てられていたのです。付近の山にカラスの捨てたマヨネーズのチューブが散乱し、カラスが大発生していました。

私たち住民はそれを見てきました。そして多摩地域の方々も自分たちの問題として一緒に取り組んできたのです。

当時の運動がなければ、未だにあの状態だったでしょう。

残念ながら処分場は作られてしまいましたが、多摩住民は行政と力と知恵を合わせてごみ減量とリサイクルを進めてきました。運動の流れでごみ行政が進んできたとは思っています。

当時の運動を悪く言うなら、当時のごみ処分場の実態も知ってほしいと思います。

あのままだ良かったというのでしょうか。トラスト運動の住民がいたからこそ、今、第3の処分場の心配をしないで済んでいるのです。減量とリサイクルの方向に多摩住民が熱心に取り組んだのです。

ご一緒に、ごみ問題のよりよい方向を探していきましょう。

日の出町議会議員 田村みさ子

■漢人あきこと片山かおるは、市民グループ「市民自治こがねい」と一緒に活動しています。市民による政策提言や問題提起をすすめる誰でも参加自由の集まりです。季刊「散歩だより」最新号は「佐藤市長、たった半年で辞職 — さあ新しい一歩を踏み出そう！」。

■議会では「みどり・市民ネット」という会派をつくっています。「市民参加と情報公開による市民本位の市政の実現のために市民にわかりやすく開かれた議会をめざし、地方分権時代にふさわしい意思決定・チェック機能として議会を活性化」「それぞれの政治的立場や見解の違いを尊重」などを基本姿勢としています。